



平成 30 年度 政務活動決算効果報告書

平成 31 年 4 月 25 日

府中市議会議長 様

事業所の所在地 府中市府川町 3 1 5 番地

会 派 名 市民クラブ

代表者名 水田 豊

次のとおり政務活動による事業実績及び収入支出決算を報告します。

1 事業実績

(1) 事業名 政務活動

(2) 事業総額 301.464 円

(3) 政務活動の内容、効果等

事業計画に沿って、先進地視察、市政報告会などを実施した。

①先進地視察 3か所視察した。

I 日本遺産認定の取り組みについて 石川県小松市

「珠玉と歩む物語」小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～の取り組みについて、府中市の観光事業の施策の参考にするため赴いた。日本遺産を活用したプランを策定して積極的に全国に発信しているということだった。

詳細は別紙、視察報告書のとおり

II サービス付き高齢者向け住宅「おかりや」について 石川県白山市

公立松任石川中央病院は、白山石川医療企業団（白山市、野々市市、川北町）で運営・経営がなされている。住み慣れた地域で安心して暮らせる「まちづくり」を目指して、地域医療、介護体制について、府中市の医療、介護、地域包括ケアシステムの参考にするため赴いた。地域医療支援病院、災害拠点病院として、「病院から施設、施設から在宅へ」をスローガンに運営・経営しているということだった。

詳細は別紙、視察報告書のとおり

Ⅲ 埋蔵文化財センター「しるし」について 富山県砺波市

国庫補助の「地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業」（改修が原則）を活用して埋蔵文化財センターを建設されて、施設は小学校敷地内にあり、わかりやすい展示・体験や遊びができるものとなっている。また、併設して地域の民具展示室もある。府中市の文化財活用、施設建設等について参考にするために赴いた。砺波市は、現在山城の取組等を全国に発信してサミットなども開催をされている。その運営は官民で実施をし年々広がりを見せているということだった。

詳細は別紙、視察報告書のとおり

②市政報告会

2月15日に、府中市センターで市民クラブの市政報告会を開催し、災害復旧・復興、地域医療等に関して報告した。参加者は約60人であった。また、2月16日には、上下町商工会館で同様な報告会を開催した。参加者は約20人であった。

視察での成果を活かし、地域医療・病院経営、歴史遺産を生かしたまちづくりなどに関しては、議会一般質問・議案質疑において、質問と政策提言を行なった。市政報告会では、市民との情報交換の中で、災害に強いまちづくりや医療・福祉のこれからについて、市民が不安に感じていることがよくわかった。

(4) その他

来年度も引き続き、医療・福祉・環境・教育・文化・観光などについて、先進地視察や市政報告会を考えています。

視察報告書

平成31年2月1日

府中市議会議長 様

会 派 名 市民クラブ

日 時	平成31年1月28日(月曜日)
視 察 先	石川県小松市
視察項目	日本遺産認定の取り組みについて
参 加 者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察内容	<p>1. 日本遺産認定の取り組みについて 小松市には2つの日本遺産が所在しており、府中市の日本遺産認定に向けての参考とするため赴いた。</p> <p>①『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～</p> <p>小松市単独で認定に向けて取り組み、2016年度に認定された。市内で産出する石材を弥生時代の勾玉、近世城郭の石垣など各時代を貫く共通項として、小松独自の文化遺産と捉えている。認定後は、食育など様々な分野とコラボして市内外に情報発信を続けている。</p> <p>②「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」</p> <p>江戸時代、北海道・東北・北陸と西日本を結んだ西廻り航路は経済の大動脈であり、この航路を利用した商船は北前船と呼ばれた。北前船寄港地に関しては、2017年度に函館市など11市町がすでに認定されていたが、2018年度には尾道市や小松市(安宅湊)を含む27市町が追加された。追加認定のとりくみの経過を伺ったが、特に何もないという回答で、認定後のとりくみもあまりないようだった。</p> <p>その他、翁座の今後の活用の参考に、粟津温泉に所在する国登録文化財「粟津演舞場」(昭和6年建設)の取り組みについても説明を希望したが、民間団体による取り組みが主で行政としては関知しないということでお話を伺えなかった。</p>
所 感	<p>珠玉～石の文化については、観光の柱の一つとして積極的に活用されている一方で、多くの自治体と一緒に追加認定された北前船寄港地は、ホームページでの紹介も少なく、取り扱いに温度差を感じた。行き詰っている石州街道の日本遺産認定の打開策として、府中市分は追加認定にするという奇策も考えていたが、ハードルは高いと感じた。</p>

視察報告書

平成31年2月1日

府中市議会議長 様

会 派 名 市民クラブ

日 時	平成31年1月29日（火曜日）
視 察 先	石川県白山市 松任石川中央病院
視察項目	サービス付き高齢者向け住宅について
参 加 者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察内容	<p>府中北市民病院の4階に設置されるサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）と比較検討するため、お話を伺った。</p> <p>1施設内で地域包括ケアシステムを完結するようにしたいということで、病院本館に隣接（連絡通路あり）して、サ高住、ショートステイ、地域密着特別養護老人ホームが各階（1階は事務所とコンビニ）に配置された、「地域包括福祉支援センターおかりや」を2015年度に建設している。各施設とも入居状況は順調で、入居者の状況に応じて病院入院を含め、各施設で連携した対応を行なっている。</p> <p>感染症対策は別棟ということで徹底しているが、隣接しているため、通院には便利が良い。</p> <p>職員は基本的に各施設ごとの専従職員だが、同一グループということで、お互いの交流は行なわれている。</p> <p>サ高住は赤字にはなっていないが、病院の規模からすると、収支の改善につながるようなものではなく、あくまで地域包括ケアをめざすものと位置付けている。</p>
所 感	<p>病院自体が、先進医療や心臓病リハビリセンターなどの高度な機能を備えているうえに、地域包括ケアシステムまでも網羅しており、正直比較できないほどの差を感じた。人口11万人でこれ程充実させる秘訣を伺いたかったが、特段変わったことはやっていないという説明だった。もしそうであるなら、府中市でもやり方次第で同じような体制を実現できるのではないか。</p>

視察報告書

平成31年2月1日

府中市議会議長 様

会 派 名 市民クラブ

日 時	平成31年1月30日(水曜日)
視 察 先	富山県砺波市 砺波市埋蔵文化財センター
視察項目	古代の遺跡を生かした展示・普及活動について
参 加 者	水田豊 土井基司 芝内則明
視察内容	<p>備後国府跡の史跡指定を受けて、その活用のアイデアを探るため、古代の遺跡を中心とした文化財の活用で評価が高い「砺波市埋蔵文化財センターしるし」の視察に赴いた。センターは、こどもたちの通う砺波市立庄東小学校の敷地内に所在し、また、校舎の空きスペースは民具展示室となっており、文化財と学校教育との連携についてもお話を伺った。</p> <p>奈良時代に実際にあった出来事を題材にした「米を都まで運ぶすごろく」を考案したり、地元ゆかりの作家の協力を得たイラストなども多用され、こどもたちが親しみを持てる展示の工夫がされていた。それ以外にも、新たに史跡指定された中世山城にちなんだ「とやま城郭パズル」など、「城ガール」をはじめとした大人も楽しめるコーナーも設けてある。</p> <p>同じ敷地内にある放課後児童教室との連携もとりくんでいる。</p> <p>砺波民具展示室は、校舎3階フロア全体を使用しており、砺波地方の民具約7,500点が分かりやすい解説付きで収蔵展示されている。2017年には、「砺波の生活・生産用具」として6,900点の民具が国の重要民俗文化財に指定され、特に繊細な資料は空調が完備された部屋に保管されている。児童たちとは別に出入りできるよう、専用のエレベーターも設置されている。地域学習の時間には教材としての活用も行なわれている。</p>
所 感	<p>学校の敷地内という立地を生かし、特にこどもたちに文化財や歴史に触れあってもらおうという取り組みが印象的であった。備後国府跡も府中学園に近接しており、学校教育との連携が課題である。コミュニティスクールの活動に備後国府を積極的に取り込んでいこうという意識改革が必要である。</p>

2 収入支出決算書

(単位:円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
政務活動費	360.000	研究研修費	
戻入金	▲58.536	調査旅費	166.620
		資料作成費	
		資料購入費	
		広報費	122.464
		広聴費	12.380
		人件費	
		事務所費	
		その他の経費	
合計	301.464	合計	301.464

※ 政務活動に要した経費を全て記入してください。